



東北観光基本計画 の取組状況 ～フォローアップ結果～



構 成

⊕ 東北観光基本計画の概要

⊕ 具体的取組

- 1 震災からの観光復興
- 2 「東北ならではの」の観光素材の発掘と磨きあげ
- 3 東北を巡りたくなる雰囲気づくり
- 4 旅行がしやすい環境づくり
- 5 国際相互交流の推進
- 6 「連携」の推進

1. 震災後の東北の観光をめぐる状況

＜震災後の観光をめぐる状況＞

- ・被災地への観光客の激減とボランティアツアーや復興応援ツアーの催行
- ・風評被害等による国内旅行需要の減少、訪日旅行の激減

＜東北地方における従来からの課題＞

- ・他産業との取組み、地域住民を含めたおもてなしの必要性
- ・近隣の市町村・観光地間の連携が不十分
- ・東北の魅力が首都圏等の人々に十分届いていない
- ・冬まつりや、冬の東北の魅力が十分知られていない
- ・旅行需要が旺盛な中高年齢層の増加
- ・若者の所得の減少、旅行への関心の低下等による旅行離れ
- ・訪日旅行者の戻りが鈍い、パスポート取得率等も他圏域より低い

＜必要とされること＞

- ・被災地への旅行需要の喚起、記憶の風化や復興需要の減少への対応
- ・東北全体での誘客プロモーション、正確な安全・安心情報の発信

- ・他産業との取組み、地域住民を含めたおもてなしの醸成
- ・複数の市町村・観光地間の連携による広域観光ルート形成
- ・東北を訪問したくなるような情報発信
- ・冬の観光需要の喚起、東北ならではの冬の魅力の打ち出し
- ・中高年齢層のニーズを踏まえた魅力的な地域づくり
- ・教育旅行や若者の旅行の促進
- ・訪日旅行者回復の努力、パスポート取得率の向上・海外旅行の機運盛り上げ

2. 基本方針

震災からの観光復興
情報発信の強化

／

新たな魅力の発掘など、これまでの延長でない取組み
世界に開かれた観光交流の推進

／

「連携」の推進

3. 目標

東北6県の観光関係統計数値において、
震災前の実績値を上回ることを目指す。

【参考(平成22年の観光関係統計数値)】

観光入込客数＝9, 464万人(注)
宿泊者数＝3, 025万人
外国人宿泊者数＝50.5万人
教育旅行実施数＝540校
国際会議の開催件数＝86件

(注)観光庁の
基準による実入
込み客数の6県
合計(秋田県は
推計値)

4. 必要な取組み

① 震災からの観光復興

- ・ 記憶の伝承と復興ツーリズムの促進
- ・ 震災体験や防災意識の醸成を目的とした旅行の誘致促進
- ・ 被災地でのインバウンドへの取組み
- ・ 誘客促進、風評被害対策としての観光情報の発信

② 「東北ならではの」観光素材の発掘と磨きあげ

- ・ 地域が主体となって持続的に推進できる観光地域づくりと滞在交流型観光の推進
- ・ 東北ならではの「おもてなし」の磨きあげ
- ・ 地場産業を取り込んだ観光振興・地域活性化（地産地消を含めた地域の活性化）
- ・ 四季折々の優れた景観の活用と保全
- ・ 地域独自の観光イノベーション
- ・ ニューツーリズムの創出、他産業との連携強化

③ 東北を巡りたくなる雰囲気づくり

- ・ 情報発信、プロモーションの見直し
- ・ 冬季観光振興対策の強化・夏祭りによる誘客の更なる強化
- ・ 中高年齢層に対する旅行の促進
- ・ 教育旅行・若者の旅行の誘致促進
- ・ 東北ならではの多様な旅行商品の造成支援
- ・ 「東北に行くことが支援につながる」といった機運の高まりと推進

④ 旅行がしやすい環境づくり

- ・ 観光地における案内所や案内表示等、情報提供の充実
- ・ 高齢者・障害者などの観光旅行者が円滑に旅行できる環境整備の促進
- ・ 情報通信技術の活用
- ・ 来訪者の交通手段や受入環境の充実
- ・ 2次交通の充実・活用など、交通モード間の連携
- ・ 災害・事故発生時の情報提供
- ・ 観光客の避難誘導マニュアルや避難場所、避難誘導体制等の整備促進

⑤ 国際相互交流の推進

- ・ 海外の一般消費者に対する情報提供の強化・利便性の向上
- ・ 海外の旅行エージェントに対する商品造成・誘客の促進
- ・ 国際会議をはじめとするMICEの誘致・開催
- ・ 東北地方における外国人旅行者の受入環境の整備
- ・ 姉妹都市連携の活用 ・ 訪日教育旅行の拡大
- ・ 相互交流の推進

⑥ 「連携」の推進

- ・ 官民が一体となった活動の推進
- ・ 東北観光推進機構との連携
- ・ 複数地域間の広域連携
- ・ 隣接ブロック地域との連携
- ・ 大学等高等教育機関との連携
- ・ 旅行業者、交通事業者、宿泊施設等の観光関係者間の更なる連携
- ・ 農林水産業・加工業者との連携

5. 施策の推進に向けて

● 東北の観光を取り巻く大きな変化への対応

- ・ 地域の特色ある観光素材の発掘・磨きあげによる観光地域づくり。
- ・ 広域的な、あるいは東北一体の情報発信・プロモーション。
- ・ 地域住民を含めた全員でのおもてなし。

● フォローアップ

- ・ 25年度から5年間毎年度フォロー。

● 観光の力による震災からの復興に向けて

- ・ 「絆」に基づく被災地への再来訪。
- ・ 観光施策を推進し、地域の伝統、文化等の維持や地域の産業を再生していくことを通じて被災地の復興につなげていく。

1 震災からの観光復興

・太平洋沿岸被災各地の観光復興対策を継続的に支援。

滞在を促進する仕組みの構築

- (1) WEB調査、地域へのヒアリングをもとに観光に関する分析
- (2) 観光取組み度合いをS～Cのランク付け
- (3) 滞在プログラム等の旅行商品化を促進



マーケティング調査のフィードバックシート



良質な滞在コンテンツ
(例: 曾原湖ネイチャーカヌー体験)

地域の情報発信体制の確立

- (1) ポータルサイト「東北物語」による広報展開
- (2) メディア媒体（交通媒体）等を活用した広報展開
- (3) 13エリアへのイベント等支援
- (4) 地域観光案内人研修



ポータルサイト「東北物語」



イベント支援(南三陸町)



地域観光案内人研修

風化防止の啓発活動

- (1) 東北観光サポーター運動の展開
- (2) 語り部ガイドの育成、データベース化
- (3) 教育旅行の促進、プログラム開発
- (4) ツーリズムEXPOジャパン各種イベント出展



ツーリズムEXPOジャパン



語り部ガイド研修会(岩沼市)



三陸わかめ収穫体験

送客の支援

- (1) つなぐ旅スタンプラリーの実施
- (2) 13エリア向けモニターツアーの実施
- (3) 旅行会社・団体と連携した取組
(JATA「ニッポンを、遊びつくせ」)
- (4) 東北観光サポーター交流会の実施



モニターツアー(北上川遡上)



スタンプラリーガイドブック

1 震災からの観光復興

・被災各地において、語り部ガイドや語り部タクシーが活動を推進するとともに、語り部ガイド等と連携した復興に関連するツアーを引き続き催行。

■モシ竜ロマン・クルーズ&三陸海岸探訪ハイキング(岩泉町)



モシ竜ロマンクルーズ
「モシ竜」の伝説が語り継がれることと有名な岩泉町小本。岩泉の復興では津波による被害を受けた。津波の被害を受けた岩泉町小本の復興を支援します。
※岩泉町小本は、岩泉町小本町中野 200-1
※お問い合わせは「小本町復興協議会」
電話 0194-28-2111 FAX 0194-28-2290

被災地ガイド

「2011年3月11日東北日本大震災の津波が岩泉町小本に押し寄せ、数千人の犠牲者を出しました。」



津波被害を受けた岩泉町小本の復興を支援します。津波が小本の町に押し寄せた時、その瞬間に小本の町の人たちは何を思ったのか、どのように逃げたのかなど、地元のガイドが説明し、質問に答えながら現地を一緒に歩きます。



※ライブツアーを企画しています。
※ライブツアーは、ご予約が必要です。

●開催時間……約1時間
●被災地ガイド……約1時間
●参加人数……5名以上(5名以下は下宿料別)
●営業期間……4～11月(11～3月は予約)
●参加料……被災地ガイドのみ、200円です

※お問い合わせは「モシ竜ロマンクルーズ」まで
※お問い合わせは「小本町復興協議会」へ
電話 0194-28-2111 FAX 0194-28-2290

海からの眺めと漁師の船長さんと被災地ガイドの話を堪能する。
モシ竜の化石が発掘されたことで有名な岩泉町小本。東日本大震災による津波被害からの復興の歩みの中、漁師の船長の船で、普段見られない海からの景色を堪能。
さらに、津波被害を風化させないことが大事という地元の皆さんの想いから、津波が小本のどこまで来たのか、その時に小本の人たちは何を思ったのか、どのように逃げたのかなど、地元のガイドが説明し、質問に答えながら現地を一緒に歩く。

■三陸鉄道スタディーツーリズム震災学習列車(三陸鉄道)



三陸鉄道社員または沿線住民が車内で震災の状況などを案内。被災状況がご覧いただける場所にて、一旦停止または徐行運転。臨時列車にて運行。

特典として、記念乗車証明書を全員に発行。

【所要時間】約70分

【受入人数】

北リアス線:座席数40～57席の車両

南リアス線:座席数50席の車両

※最大車両編成:北リアス線4両
南リアス線2両

■石巻・防災意識を高めるガイドツアー(一般社団法人防災プロジェクト)

石巻圏 語り部ガイド



個人家族の被災地観光から各種団体の視察、社員(企業)研修まで活用できるガイドツアー。
石巻・東松島・女川町等、石巻圏の視察地を自由に選択できる面で好評。

これまでに消防団・議員・教員・学校団体・行政職員・企業・看護師・海外視察員・家族・ボランティア団体等をガイド。

4名から200名弱(大型バス5台)まで対応可能。

■福島バス物語(福島県観光二次交通連絡協議会)



＜南相馬ソーラー・アグリパーク体験＞

太陽光発電所と植物工場を舞台とした体験学習を通して、地元の子供たちの成長を支援し、全国の人々との交流を行う復興拠点。
本物の太陽光発電所と実際に野菜を生産している植物工場を見学し自然のエネルギーを実体験。
市内の移動はタクシー。運転手の体験談を聴いていただきながら津波被害の爪痕も訪問。手づくりのお弁当も楽しみの一つ。

＜相馬復興！ 海鮮丼とタクシーパック＞

多くの支援への感謝の気持ちと松川浦を復興させたい思いで旅館や飲食店主が「復興丼」をつくった。タクシー運転手が体験談を交えながらいまだに残る震災の爪痕と着々と復興に進む相馬市の姿をガイド。

1 震災からの観光復興

・被災各地において、語り部ガイドや語り部タクシーが活動を推進するとともに、語り部ガイド等と連携した復興に関連するツアーを引き続き催行。

■いわて三陸観光応援バスツアー(岩手県)



(上期)



(下期)



○三陸観光プラットフォームを構築し、震災語り部ガイド団体のネットワーク化やスキルアップ研修、被災地の一元的な情報発信などを実施

○プラットフォームに中核コーディネーターを配備し、観光地づくりを推進

○震災語り部ガイド等被災地を知ってもらう内容に加え、復旧しつつある観光施設等を組み入れた「いわて三陸観光応援バスツアー」の運行を支援
上期:4コース、下期:3コース

■語り部タクシー(東北ハイク連合会)



○東日本大震災を後世に語り継ぐため、乗客を被災地に案内し被害状況や復興状況を説明する「語り部タクシー」の運行が宮城県仙台市などで行われ、被災地来訪者へのタクシー業界の対応が続いている。

○平成24年11月～26年12月までの語り部タクシー利用状況は3,095回 8,694人
蒲生・荒浜・関上・仙台空港方面: 2,394回 6,151人
東松島・石巻方面: 387回 1,429人
南三陸・気仙沼方面: 233回 816人など

■みちのく潮風トレイル・JATAの道プロジェクトを始動(JATA東北支部)

○青森県八戸市・階上町でのプロジェクトの概要
環境省「グリーン復興プロジェクト」と連携したJATA東北復興支援活動。環境省の設定する「みちのく潮風トレイル」の全区間について、本年度から2020年度までの7年間にわたり、延べ1000名の参加を目途にトレイルの整備活動を継続するとともに、新しい東北観光の実現を目指す。

○本年度の活動内容

平成26年10月24日(金)～25日(土)

参加人員 66名(うち、東北支部は21名)

階上岳登山道・山頂(8班編成)に道標の設置、葦毛崎展望台～種差海岸の踏査、JR種差海岸駅に「みちのく潮風トレイル」の案内板の設置 等

■ボランティアツーリズム推進事業(宮城県)

○平成23年度に設置した「みやぎ観光復興支援センター」において、旅行会社や学校、企業等に対するボランティアツアーや学習プログラムに関わる情報提供を行うとともに、被災地の受入先とのマッチングを行った。
平成26年度のマッチング実績(平成26年12月末)162団体4,978人



(宮城復興ツーリズムガイドHPより)



2 「東北ならではの」の観光素材の発掘と磨きあげ

- ・観光地づくりをビジネスにつなげる観光地ビジネス創出の総合支援を展開。
- ・地域観光案内人を主対象として、スキルアップと相互の関係強化を目的に「広域交流研修」を推進。

「観光地ビジネス創出の総合支援」

- ・観光地づくりをビジネスにつなげるにより観光地づくりの取組を自立的かつ継続的なものとする。
- ・売れる旅行商品を開発、観光地の担い手育成、自立的営々への誘導等を行い、観光地づくりを推進
- ・タビの産直イチ(通称「タビイチ」)では、取組の集大成として商談会を開催した。全国45の地域が作り上げた商品を持ち、バイヤーと商談。東北は9つの地域が参加した。



モニターツアーの様子



「タビイチ」商談会の様子



「観光案内所連携会議」

- ・連携により誘客の効果が見込まれる地域間で、観光案内所の案内業務担当者が交流する会議を設定し、地域情報の交換および風評被害の払拭を目指す取り組みの検討等を行う。
- ・検討テーマに応じた専門家を派遣する。

(1) 参加地域・対象者

平成26年～27年にかけて復旧・開通が予定されている常磐自動車道の沿道地域にある主要観光案内所の案内業務担当者。

- ・仙台市、亘理町、相双地方(相馬市・南相馬市)、いわき市
- ・SA・PAの案内業務担当者のオブザーバーによる参加

(2) 内容

- ・年度内に3回開催。検討テーマに応じた専門家の派遣や、現地視察会の手配等を支援。
- ・27年度に常磐自動車道の沿道の観光関係者が連携してアプリによる情報発信を実施予定。



(南東北ワークショップ)

2 「東北ならではの」の観光素材の発掘と磨きあげ

- 東北各県は様々な観光資源の発掘や磨き上げを推進。他県や他地域と連携した広域の取組も実施。

【秋田県】明治百年通りにぎわい創りプロジェクト

- 県と小坂町が協働で取り組む「明治百年通りにぎわい創りプロジェクト」において、廃線となっている旧小坂鉄道施設等を活用した「小坂鉄道レールパーク」の整備が完了し、レールバイクやディーゼル機関車の運転等の体験メニューを提供するなど、十和田・八幡平エリアの新たな滞留型観光拠点としての活用を図っている。



【小坂鉄道レールパーク】

秋田おもてなし運動

- 県内各地の地域や職場の仲間、団体などが「おもてなしSTAFF」として登録する運動を展開。
登録グループ数：904団体、登録人数：74,698人

【宮城県】松島“湾”ダーランド構想事業

- 全国的に知名度の高い松島の更なる魅力向上を図るため、県と関係市町が連携し、松島湾全体の観光資源を、テーマ性やストーリー性を持たせて有機的につなげて誘客を行う「松島“湾”ダーランド構想」を推進中。松島湾観光フォーラムやモニターツアー等を実施。



モニターツアーの様子

【岩手県】全国ほんもの体験フォーラムinいわて

- 地域の体験型観光ブランドを全国に向けて発信し、観光客の受入拡大を図るため、平成26年10月24日～26日、県北地域を中心に、「全国ほんもの体験フォーラムinいわて」を開催。

【山形県】観光地づくりアドバイザー派遣

- 地域づくりの活動を行う団体等が観光交流拡大に向けた地域資源の発掘・磨き上げを行う新たな取り組みを支援。
- 地域資源の活用策や人材の育成、受入態勢づくりなどの地域が抱える課題の解決に必要な専門家（観光地づくりアドバイザー）を派遣。

【福島県】「おもてなし研修」を全県で開催

- 地域のおもてなし力向上を図るため、観光や運輸関係者、一般県民などを対象にした「おもてなし研修」を全県で開催しているほか、県民みんなで観光客をおもてなしする「福が満開おもてなし隊」活動、観光地を花で飾り観光客をお迎えする「花いっぱいおもてなし運動」に取り組んだ。



3 東北を巡りたくなる雰囲気づくり

- ・ JR東日本が東北6県についてデスティネーションキャンペーン等を実施・計画中。各県の観光入込客数増に大きく貢献。

山形デスティネーションキャンペーン（平成26年6月～9月）

- ・ 主要観光地87箇所における観光入込者数は11,641千人となり、平成25年同期比1,925千人、19.8%増加
- ・ 主要宿泊温泉地17箇所における観光入込者数は2,005千人となり、平成25年同期比113千人、6%増加、経済波及効果は125億円（推計）となるなど、具体的成果として現われた。



秋田県大型観光キャンペーン（平成26年10月～12月）

- ・ 同時期に開催された「第29回国民文化祭・あきた2014」との相乗効果を図るため、「文化を旅する」をキャッチコピーに、秋田県の伝統行事や祭りをデザイン化したポスター展開や、大宮駅での竿燈や西馬音内盆踊りの披露等を実施。



うまっ！いわて秋冬期観光キャンペーン（平成26年10月～平成27年3月）

- ・ 本県初の秋冬期（平成26年10月～平成27年3月）の観光キャンペーンである『うまっ！いわて秋冬期観光キャンペーン』を開催。
各種イベントでのPR、キャンペーンポスター、ガイドブックなどでの、訴求力を高めるため、本県出身の漫画家・池野恋氏「ときめきトゥナイト」とコラボを実施。



今後の展開

- ・ 「福が満載、福のしま。」をキャッチフレーズとした福島デスティネーションキャンペーンを開催。（平成27年4月～6月）
- ・ JTBは、東北6県全域で「日本の旬 東北」キャンペーンを開催。（平成27年4月～9月）
- ・ 「山形日和。」観光キャンペーンを開催。（平成27年6月～9月）
- ・ 平成27年度末の北海道新幹線開業を契機に、青森県・函館デスティネーションキャンペーンを開催。（平成28年7月～9月）

3 東北を巡りたくなる雰囲気づくり

・東北のブランド、東北の夏祭り等の祭りを通して、東北を巡りたくなる仕掛けを実施

東北六魂祭（第4回目：秋田市）

- ・東日本大震災発災後、東北全体で交流人口が大きく落ち込み、復興に向け、正確な情報発信・誘客回復に向けた取り組みを展開することが喫緊の課題となっていた。
- ・犠牲者の鎮魂と東北復興ののろしを上げるため、東北の6市および各祭り主催団体が実行委員会を設立。平成23年7月に仙台市で東北6県の夏祭りが一堂に会する「東北六魂祭」を開催。
- ・その後は毎年、盛岡市、福島市、そして山形市で六魂祭を開催。回を重ねるごとに、東北の復興を願う一大イベントとして定着。
- ・平成27年は、秋田市にて開催。（5月30日、31日）六魂祭初の夜8時までの開催を実施。



東北六魂祭の様子(山形市)

東北まつりネットワーク（東北六県商工会議所）

- ・東北六県の商工会議所（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島）の各県）が連携し、2012年に「東北まつりネットワーク」を結成。
- ・東北の「まつり」主催者が連携することで、東北地方の回遊性の向上と交流人口の拡大を図り、東日本大震災からの復興、地域活性化につなげることを目的に継続的に情報発信を推進。



東北ふゆまつり 冬の東北はみどころ満載！

- ・大手旅行会社・航空会社・鉄道会社10社と地元組織がつくる冬の旅キャンペーン。
- ・各地のお祭りのほか、温泉、雪中のアクティビティ、グルメ、手作り体験など冬ならではの東北の魅力を発信。



3 東北を巡りたくなる雰囲気づくり

- 乗ること自体が楽しい交通手段や東北の観光資源・食・体験等を通して、東北を巡りたくなる仕掛けを実施

五能線を走るリゾート列車「リゾートしらかみ」



「リゾートしらかみ」外観

「とれいゆ つばさ」



東北新幹線E5系車両

新潟～会津若松間は「SLばんえつ物語」



「SLばんえつ物語」外観



津軽鉄道の名物列車であるストーブ列車

八戸～久慈間で運行



「Tohoku Emotion」

釜石線・花巻～釜石間で運行



「SL銀河」

郡山～会津若松間



フルーティアふくしま



4 旅行がしやすい環境づくり

- ・乗ること自体が楽しい交通手段や観光2次交通の充実・活用を推進。

レンタカー東北周遊観光促進検討会議

東北は、幹線交通の整備が着実に進んでいる一方、交通拠点と各地の観光資源をつなぐ二次交通が課題。



検討会議を設置し、次の事項を検討

- 1) レンタカー利用者利便の向上
レンタカー乗り捨ての容易化、
宿泊施設を利用する際の弾力的料金設定
- 2) 情報発信・プロモーションの強化
旅行会社との連携による商品化
パンフレット等の作成
国内外での効果的プロモーション

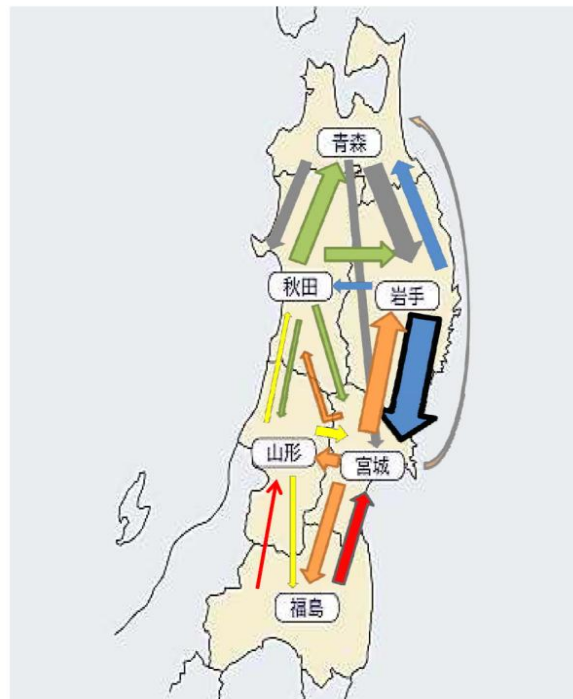


- 「レンタカー東北周遊観光促進計画」を作成
- 「レンタカー東北周遊推進協議会(仮称)」を27年度に設置予定。

※検討会議構成員:

宮城県観光課
仙台市観光交流課
仙台市国際プロモーション課
東北観光推進機構
宮城県レンタカー協会
JATA東北支部
宮城県観光協会
仙台観光コンベンション協会
JAF
NEXCO東北支社
日本航空(株)仙台支店
ANAセールス(株)仙台支店
東北運輸局企画観光部

東北管内におけるレンタカーの乗捨状況



※乗捨件数の最も多い岩手⇒宮城を100として算出した線の太さ
※平成26年5月～10月 個人及びエージェンツの送客による利用

BRT (バス高速輸送システム) の活用

○観光型BRT車両(気仙沼線・大船渡線BRT)の運行

- ・乗車することが目的となる「乗って楽しい」観光型BRT車両を2つのテーマで導入。
- ・旅行客や沿線住民の旅行需要を創出する側面から、BRT沿線の復興を支援。・大きな眺望を確保し、沿線の自然や街並みを体感
- ・車窓が目の前に迫る窓向きシート、ボックスシートなど
- ・車内のモニターやパンフレットで沿線の観光情報を紹介
- ・運転席に設置したビューカメラで臨場感ある映像を放映

○BRTも乗り降り自由なホリデーパスを発行

運行区間

気仙沼線BRT・柳津～気仙沼間
大船渡線BRT・気仙沼～盛岡



4 旅行がしやすい環境づくり

・案内表示、Wi-Fi利用、免税店情報提供などの各種受入環境整備を推進。

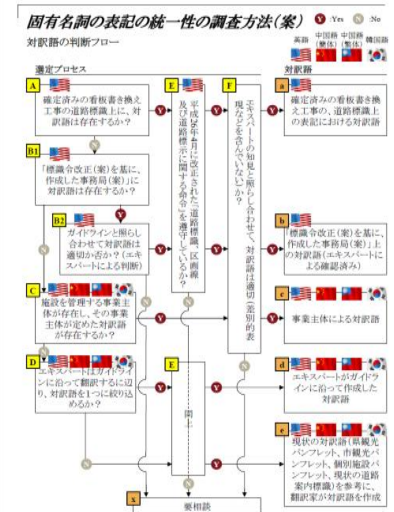
2020年オリンピック・パラリンピックに向けた地方の「おもてなし」向上事業（宮城県）

- 2020年オリンピック・パラリンピックの開催を絶好の機会と捉え、宮城県全域で外国人旅行者の受入で求められている「おもてなし」の醸成を図るべく、観光に関わる事業者や観光学科等の学生が簡単に取り組めるe-learning等を構築し、誰もが積極的に外国人旅行者に対するおもてなしを実行できるよう、ボトムアップを図っていく。



観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化に関する調査業務事業（会津若松市）

- 観光庁で策定したガイドラインを基に、行政の役割として多言語の観光パンフレットや道路案内標識で使用される英語表記を作成、統一化を図る。
- 民間の役割として、観光施設や宿泊施設等による商品やサービス説明資料等の多言語表記に向け自発的な取り組みを推進する。




外国人目線による多言語対応現状調査

- 仙台市内の仙台駅を中心としたショッピング施設、市内の商店街等における免税店の店舗内表示、商品の表示、フリーWi-Fiの案内表示等の多言語対応等について外国人目線で調査を行い、好事例・改善点等を調査するとともに、今後の改善案を策定。



Wi-Fi環境調査



免税店店内表示等の調査

東北六県・仙台市の多言語パンフレット・ポスターにおける外国人目線による現状調査

- 多言語の観光パンフレット・ポスターを外国人の目線での査を実施し、改善案を示すことで、外国人目線でのパンフレット・ポスターの作成を促し、外国人に対して魅力的なパンフレット等の作成に結びつける。



ポスター・パンフレット調査



5 国際相互交流の推進

・ホームページ等によりSNSやブロッガーを活用し英語・韓国語・中国語での情報発信を展開。また現地でのセミナーやFIT・SIT向けの招請による情報発信を実施。

東北の現状や観光魅力の情報発信

- 海外へ東北の観光情報を発信する旅東北の「facebook」ページにおいて、英語、韓国語などの言語で東北の現状や観光魅力を随時発信するとともに、中国向けには当地で有力なサイト「新浪微博」を活用して情報発信。

外国人誘客 SNSに力 東北運輸局と観光推進機構

外国人観光客を東北に呼び込もうと、東北運輸局と東北観光推進機構がフェイスブックなどの会員制交流サイト（SNS）を使った情報発信に力を入れている。外国人客は全国的に増加しているが、東北は東日本大震災前の水準に戻らず、苦戦する状況を踏まえた。

英語版のフェイスブックと、中国版短文投稿サイト微博（ウェイボ）の東北観光ページを6月、それぞれ一新。シンガポールや中国に在住の現地スタッフが実際に東北を歩き、外国人から見た生の情報を伝える。

風評払拭へ食や生活発信

5月には韓国向けのフェイスブックにページを開設。東北の食や生活といった日常の様子を発信し、福島第1原発事故に伴う風評被害の払拭（ふっしょく）に取り組む。

運輸局によると、日本を訪れる外国人観光客は2013年に1000万人を超えたが、東北は震災後、韓国や香港からの観光客が伸び悩み、震災前の50万人を大幅に下回る27万人にとどまる。

運輸局は「東北の売りは春の桜と冬の雪だが、魅力を伝え切れていない。東北に来てもらう機運を醸成する必要がある」と、SNSの積極活用的重要性を訴える。

頻張ると口の中で溶けて・・・東北の絶品グルメを紹介、「とても不気味・・・」「鍋の必需品だね」—中国ネット

FOCUS-ASIA.COM 12月12日(金)4時24分配信

日本の東北観光推進機構は11日、中国版ツイッター・微博（ウェイボ）で現地料理の「たらのキク酢」について紹介、中国ネットユーザーの注目を集めた。

宮城県の気仙沼には「たらのキク酢」と呼ばれる非常においしい料理がある、と紹介。タラの白子（精巣）を酢に漬けたもので、脳みそのような見た目やその名前に最初は抵抗を覚えるが、ひとたび頻張るとすぐに口の中で溶けて非常に美味であるとした。値段は高く、現地で小皿で600円するが、絶対に食べてみる価値はあるとした。

微博ではタラの子袋（卵巣）と説明されているが、本来の「たらのキク酢」は白子を使用する料理だ。



【東北観光推進機構】 旅＊東北

- 東北観光推進機構は、東北の認知度向上や国内外（特に東アジア）からの観光客誘致を目的とするポータルサイト「旅＊東北」を運営。スマホ・タブレットの使用ユーザーの増加に対応するため、旅＊東北モバイル版を作成しPV数の増加を推進。



韓国旅行エージェント等招請事業

- 風評被害が根強い韓国市場においては、韓国でニーズの高いトレッキングを中心としたFIT・SIT向けの体験型観光を中心として、東北の現状・魅力についての正確な理解を促すとともに観光魅力を発信。



5 国際相互交流の推進

- ・ スキーや冬祭り、モデルコース等を活用し、国内外に向けて、認知度向上及び旅行商品造成を図るための施策を推進。

スキーをテーマとしたインバウンドプロモーション

- ・ スキーに関心の高い豪州やロシア、そして昨今人気が高まっている中国からそれぞれ旅行エージェントを招請。
スキー旅行の目的としての東北の理解を進め、旅行商品造成を促進。
- ・ 豪州やロシアで開催されたスキー旅行博に出展し、東北のスキー場を中心とした観光魅力について、直接現地消費者にPR。



中国プロモーション事業

- ・ 中国パワーブロガーを活用して、上海・杭州において、現地でのセミナー参加者を募るという初の試みを実施。多くの一般参加者に参加いただいて、東北の現状・魅力についての正確な理解を促すとともに観光魅力を発信。



鉄道を利用した個人旅行者へのプロモーション

- ・ 東北のゴールデンルート開発を目指して、台湾・香港・タイの一般消費者に向けて東北の正しい情報(現状)を伝えるとともに、メディアの招請と現地での旅行エージェントを対象としたセミナーを連携して実施し「JR EAST PASS」等、旅行する上で利便性の高いツールの活用と、旅行者の目線に即した魅力的な東北の鉄道の旅を情報発信。



台湾教育旅行誘致事業

写真:宮城県教育旅行ガイドより引用

- ・ 日本政府観光局(JNTO)主催の台湾教育関係者招請事業を活用し、台湾の教育旅行関係者を東北地域に招請。
- ・ 東北の正しい現状の認識と教育的な観点から見た東北の観光資源等について情報発信するとともに、地元の教育関係者との意見交換等を実施。



MICEを活用した東北観光PR

国連防災世界会議が2015年3月に東日本大震災の被災地である仙台で開催され、仙台が世界から注目される機会を捉え、東北の情報発信を行うとともに、今後、MICEを誘致するためのユニークベニューの調査を実施。

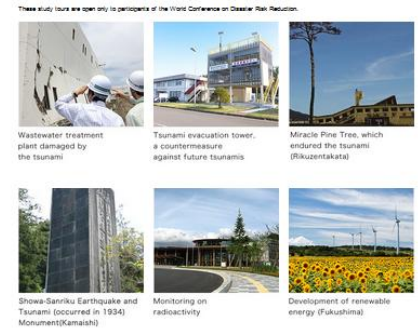


UN World Conference on
Disaster Risk Reduction
2015 Sendai Japan

会議参加者への情報発信

被災地（岩手県、宮城県、福島県）をめぐり、復興の現状を伝えるスタディツアーを26種類実施。

Study Tours	
Objective	Visit areas around Sendai, Iwate and Fukushima to learn about the March 2011 Great East Japan Earthquake and ongoing efforts towards reconstruction
Themes	1. Experiences and lessons learned from the Great East Japan Earthquake 2. "Actions of multi-stakeholders" — a study of various actions of residents of Tohoku working on disaster risk reduction 3. "Build back better" — Real-life situations of people working to rebuild their lives
Dates	Daily for the duration of the conference (14-18 March 2015) Mostly half-day trips, with a few full-day trips, depending on the destination
Fee	Free
Language	English



Excursions	
Objective	General sightseeing (including disaster affected area tourism)
Themes	1. Experience the richness of nature, culture, history and daily life in the Tohoku region around Sendai 2. Witness recovery efforts since the 2011 Great East Japan Earthquake
Fee	Please refer to the Tour Guidebook
Language	English



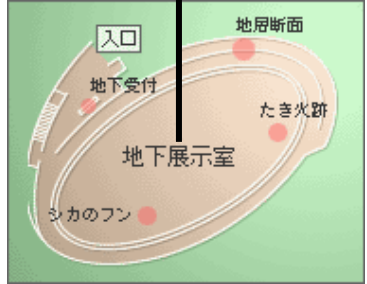
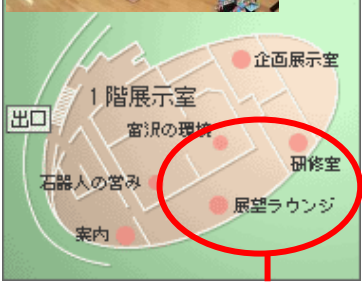
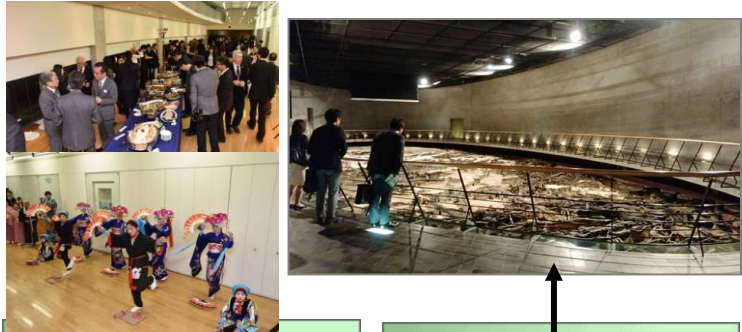
会議終了後に東北6県の視察や各種体験を通じて、東北の多様な魅力の発信を行うエキスカーションを5本実施。



東北の魅力を伝えるための東北ガイドブックを作成・配布

ユニークベニュー調査

世界でも類をみない、2万年前の旧石器時代の遺跡をそのまま保存した遺跡博物館において、ユニークベニュー利用時の課題抽出を目的としたモデルイベント（文化財に携わる国際専門家会合のレセプション）を、国立文化財機構や仙台観光コンベンション協会の協力を得て、観光庁が実施。



- ・展望ラウンジにてレセプション開催
- ・今回のみの特別開放（通常はユニークベニューとして利用できない）

5 国際相互交流の推進

1. 海外の一般消費者に向けて、メディアやSNSの活用、イベント開催等により情報発信を強化。
2. 海外の旅行エージェント等の招請に対して旅行商品の造成・送客を促進。
3. 日本東北六県感謝祭と連動し、以下の取組みにより効果的な東北プロモーションとし東北地方への誘客を促進。

「東北プロモーションin台湾」の開催 (VJ地方連携事業)

- ・台湾にて東北六県が一体となったプロモーションを行い、東北地方への誘客を図りつつ、東北の現状について正しい情報を伝えるとともに観光情報を提供し、東北向け旅行商品の造成・販売を促進。

○平成26年12月17日～18日

- ・台湾旅行会社及び航空会社への表敬訪問
- * 高雄(3社)・台中(3社)・台北(6社)を表敬訪問

○平成26年12月19日(日本東北六県感謝祭初日)

- ・現地旅行会社・航空会社向け東北観光セミナーの開催



・商談会の開催



- ・現地旅行会社・航空会社参加者数: 57社(92名)
- ・東北側観光関係者38社(72名)

「東北応援メッセージボード」の掲示

- ・日本東北六県感謝祭で台湾の皆さまから多くの感謝や励まし頂いた応援メッセージボードを仙台駅に掲示し、JNTOのfacebookでこの取組みを台湾に向けて情報を発信。



- ・仙台駅での掲示期間
- ・平成27年2月11日～3月12日

6 「連携」の推進

- プロ野球球団とのスポーツを通じた観光の連携。
- 大学等との連携による育成プログラムの開拓。

「東北楽天ゴールデンイーグルスとの連携」

- 東北運輸局と東北観光推進機構では「MONKEY MAJIK」、「Rake」に引き続き、26年7月に「東北楽天ゴールデンイーグルス」を東北観光親善大使に任命。



- 復興商店街でつなぐ旅での連携、東北各地と連携した情報発信、東北六県感謝祭(台湾)等における「TOHOKU」の 프로모ーション等を実施。



「次世代観光経営者育成プログラム」

- 本プログラムは、2012年度より観光庁の人材育成事業として立ち上げ、山形大学や山形県、山形県内の旅館関係者協力を得ながら事業を実施。
- 地域と共に生きる経営者として、基礎的な経営スキルを身に
つけ、強い意志とビジョンに基づき、知識と実際の行動を一致



- 24年度に山形、25年度は山形、山口、26年度より山形大学において独自でプログラムで実施し、山形県内始め、長野県や熊本県など、全国各地から受講。

6 「連携」の推進

- ・東北全体が共通して活用できる海外プロモーション用のロゴマークを作成。
- ・旅行博への出展や商談会等において、物産のPRや隣接ブロック地域と連携したプロモーションを推進。

「東北の観光」ロゴ・マークの海外プロモーション活用

- ・東北経済産業局、一般社団法人東北経済連合会、東北観光推進機構との協同により、地域産品販路拡大・交流人口拡大を見据えた東北ブランドの確立に向け、東北の海外を中心とする魅力発信ツールとして、東北7県の協力を得て、東北地域が一体となったプロモーション映像を制作、海外での活用を実施。



東北プロモーションDVD画像
(東北経済産業局HPより)



台湾セミナー放映画像

物産や東北以外の地域との連携の推進

- ・仙台湾税局の協力を得て、東北清酒鑑評会への台湾メディアが参加。東北の日本酒の魅力取材。



- ・中国市場向けのプロモーションにおいて、東京観光財団の協力を得て、東京の「最先端の日本」と「伝統の日本」を組み合わせる東京東北の観光ルートを紹介するセミナー・商談会を大連、上海にて実施。実際の東京東北観光ルートに中国から旅行会社を招請して視察も実施。



東京東北連携セミナー・商談会

6 「連携」の推進

- 東北全体が共通して活用できる資源等最大に、隣接ブロック地域と連携したプロモーションを推進。

「東北・夢の桜街道推進協議会」との連携

- “多くの犠牲者の鎮魂と被災地の早期復興”に祈りを捧げて巡る『東北・夢の桜街道～桜の札所・八十八カ所巡り』運動(向こう10年間継続的に実施)
- 東北6県、東京都など行政や公共交通機関、観光関連企業、信用金庫業界が構成員として参加する「東北・夢の桜街道推進協議会」が推進組織。なお、平成24年3月31日、特別委員として、国(国土交通省東北地方整備局、国土交通省東北運輸局)や東北観光推進機構が同協議会に参加。



東北・夢の桜街道HPより

「東京・東北地域の連携による外国人旅行者誘致推進協議会」が発足

- 2020年の東京五輪とその先を見据え、東京-東北を巡る観光ルートなどを海外に発信することを目的とした「東京・東北地域の連携による外国人旅行者誘致推進協議会」が23日発足。
- 東京と東北の魅力を結ぶことで、効果的な誘客事業を展開し、双方の観光客を増やすのが目的。



山形新聞1月24日記事引用

「ガイド東北」がスタート

- 東北地方整備局が東北を訪れた多くの人に被災地の復興状況を理解してもらおうと東北の各省庁、各県、民間等と開発。アプリでは被災直後の状況や現在の復興状況を確認できるほか各地の道路・河川・港湾の歴史、観光名所や飲食店、宿泊施設などの画像や動画などを見ることができる。
- 日本語版とともに14日から始まった国連防災世界会議にあわせて英語版も作成し同日より公開。公開時点で、228の団体から提供された日本語版2000地点、英語版で400地点が地図上に登録。

「ガイド東北」がスタートします。

スマートフォンアプリ「ガイド東北」のダウンロードはこちら



東北地方整備局HPより

